

各位

上場会社名 初穂商事株式会社
 代表者 代表取締役社長 斎藤 悟
 (コード番号 7425)
 問合せ先責任者 専務取締役管理本部長 高野 温志
 (TEL 052-222-1066)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成21年10月30日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成21年12月期通期個別業績予想数値の修正(平成21年1月1日～平成21年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	15,210	△37	17	8	0.97
今回発表予想(B)	14,184	△91	△32	△51	△6.19
増減額(B-A)	△1,026	△54	△49	△59	
増減率(%)	△6.7	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成20年12月期)	16,803	50	119	47	5.69

修正の理由

日本経済は、在庫調整の一巡や世界景気の改善を背景に輸出や生産に好転の兆しが一部見られましたが、依然として、昨秋からの金融危機の影響を受け厳しい状況で推移いたしました。

建設業界を取り巻く状況は、世界景気の持ち直しにより、後半は需要の回復が見られるものと期待をしておりましたが、設備投資や住宅投資が依然として低迷し、商業ビルやマンションなどの民間建築需要の冷え込みが続き、非住宅向け物件や新設住宅着工は、前年同期に比べ大幅な減少が続いております。

また、民主党政権が公共工事の大幅な削減方針を打ち出すなど建材市場は厳しさを増してまいりました。このようなことから、オフィスビルやマンション等に使用される当社主力商品の軽量鋼製下地材・不燃材の販売が第3四半期会計期間において急減したため、売上高は141億84百万円(前回発表予想比10億26百万円減)となる見込みであります。

また、利益面につきましては、固定費の大幅な削減を実施するなど経費削減に努めたものの売上高の減少に加え、販売競争の激化により、利益率の低下を余儀なくされました。これにより、営業損失91百万円(前回発表予想比54百万円減)、経常損失32百万円(前回発表予想比49百万円減)、当期純損失51百万円(前回発表予想比59百万円減)となる見込みであります。

以上